

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	獨協大学
設置者名	学校法人 獨協学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
外国語学部	ドイツ語学科	夜・通信	22			22	13	
	英語学科	夜・通信				22	13	
	フランス語学科	夜・通信				22	13	
	交流文化学科	夜・通信				22	13	
国際教養学部	言語文化学科	夜・通信				22	13	
経済学部	経済学科	夜・通信				22	13	
	経営学科	夜・通信				22	13	
	国際環境経済学科	夜・通信				22	13	
法学部	法律学科	夜・通信				22	13	
	国際関係法学科	夜・通信				22	13	
	総合政策学科	夜・通信				22	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.dokkyo.ac.jp/daigaku/g03_05_j.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	獨協大学
設置者名	学校法人 獨協学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人獨協学園ホームページ
<http://dac.ac.jp/pdf/yakuinmeibo-20190601.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	副市長	H27. 8. 2～ R01. 8. 1	組織運営体制への チェック機能等
〃	医療法人財団理事長	H30. 4. 1～ R01. 8. 1	〃
〃	ジャーナリスト	H27. 8. 2～ R01. 8. 1	〃
〃	株式会社専務執行役員	H30. 10. 1～ R01. 8. 1	〃
〃	独立行政法人顧問	H27. 8. 2～ R01. 8. 1	〃
〃	経営者協会会長	H28. 8. 1～ R01. 8. 1	〃
〃	弁護士	H27. 8. 2～ R01. 8. 1	〃
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	獨協大学
設置者名	学校法人 獨協学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記項目を適切に記載するためのシラバス作成ガイドラインを教員に配布し、ルールに沿ったシラバス作成を促すとともに、適切な内容が記載されているか、第三者のチェックを経てシラバスの適正性を担保している。 ・作成したシラバスは大学ポータルサイトの一般の方が参照可能なページに掲載している。 ・公開時期は毎年度末の3月。 	
授業計画書の公表方法	http://www.dokkyo.ac.jp/kyoumu/b03_03_j.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席管理システムや受講者名簿、レスポンスペーパーなどで出席状況を把握し、成績不振の学生を定期的に抽出することで学習状況を把握するとともに、面談など適切な対応を行っている。 ・現状も存在する成績不振者指導制度について、今回の修学支援制度の「適格認定の基準(学業成績・修学意欲に関すること)」を援用し更なる充実を図る予定である。 ・学生自身が成績評価を把握する指標としてGPAを導入し、成績評価とともにGPAを定期的に学生に通知している。また、実際の成績評価方法として相対評価導入の議論をしている。 ・一部の語学系科目において、試験問題の共通化と複数教員による採点を行うことで、成績評価の客観性を担保している。 	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修成果を測る指標として GPA を導入し、成績評価とともに GPA を通知している。 ・前年度の成績分布表を作成し、学部や関連部署で共有している。 ・GPA の計算式は下記の通りである。 $\frac{(AA \text{ の単位数} \times 4) + (A \text{ の単位数} \times 3) + (B \text{ の単位数} \times 2) + (C \text{ の単位数} \times 1)}{\text{免許課程及びその関連科目を除く登録単位数 (累計)}}$	
客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.dokkyo.ac.jp/daigaku/g04_01_01_j.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業の認定に関する方針を大学ホームページで公表している。方針に沿った卒業判定が行われているかを複数の会議体・部署で確認することで、方針と判定結果との齟齬がない適切な卒業認定が行われるよう徹底している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.dokkyo.ac.jp/daigaku/a01_10_j.html/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	獨協大学
設置者名	学校法人 獨協学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://dac.ac.jp/finance/
収支計算書又は損益計算書	http://dac.ac.jp/finance/
財産目録	http://dac.ac.jp/finance/
事業報告書	http://dac.ac.jp/finance/
監事による監査報告(書)	http://dac.ac.jp/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: _____ 対象年度: _____)
公表方法: _____
中長期計画(名称: _____ 対象年度: _____)
公表方法: _____

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/a04_01_01_j.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: _____

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 外国語学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p> <p>（概要）外国語学部は、ドイツ語、英語、または、フランス語の運用能力を有し、その言語を用いる地域の歴史・文化・社会を理解するための専門知識を習得した、国際的視野に立つ教養人を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p> <p>（概要） （学位授与要件、学位の種類） 修業年限を満たし、所定の単位を修得し、卒業時点で以下の能力を身に付けた者に「学士（外国文化）」の学位を授与する。</p> <p>（学位の裏付けとなる「能力」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の運用能力を身に付けている。 ・外国語圏の歴史・文化・社会に関する体系的な専門知識を身に付けている。 ・国際的視野に立つ教養人としての素養を身に付けている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p> <p>（概要） （カリキュラム） ドイツ語、英語、または、フランス語の運用能力を有し、その言語を用いる地域の歴史・文化・社会を理解するための専門知識を習得した、国際的視野に立つ教養人を育成するためのカリキュラムを編成する。</p> <p>（外国語教育） 外国語を「読む」「書く」「話す」「聞く」という運用能力を総合的に養成し、専門的なレベルに到達させるカリキュラムを学部独自、あるいは全学的に編成し、実施する。</p> <p>（教養教育） 主として人文科学、社会科学、自然科学の各分野に関する科目を配置したカリキュラムを全学的に編成し、実施する。</p> <p>（専門教育） 外国語学部の教育目的や特色に応じた専門知識、技能を体系的に習得できるカリキュラムを学科独自に編成し、実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>

<p>(概要)</p> <p>(求める人物像) ドイツ語、英語、または、フランス語の運用能力を有し、その言語を用いる地域の歴史・文化・社会を理解するための専門知識を習得した、国際的視野に立つ教養人となるための資質を有する人物を求める。</p> <p>(出願要件) 高等学校卒業程度の資格と学力を要する。科目別では外国語、国語、地理歴史・公民、数学、理科の学力を求める。</p> <p>(入学者選抜方法) 外国語教育重視の観点から、外国語科目を重視した入試を行う。また、多彩な学生の受け入れを図るべく、一般入試をはじめとする様々な入試制度を設ける。</p>
--

<p>学部等名 国際教養学部</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf)</p> <p>(概要) 国際教養学部は、複数の外国語の運用能力を身につけるとともに、環太平洋地域を見据えた日本を含む諸地域の言語・文化・社会についての知識を習得し、さらに、日本が蓄積してきた「知」を国際社会における教養の一環として積極的に発信しうる市民を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf)</p> <p>(概要)</p> <p>(学位授与要件、学位の種類) 修業年限を満たし、所定の単位を修得し、卒業時点で以下の能力を身に付けた者に「学士(外国文化)」の学位を授与する。</p> <p>(学位の裏付けとなる「能力」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の外国語の運用能力を身に付けている。 ・環太平洋地域を見据えた日本を含む諸地域の言語・文化・社会についての知識を身に付けている。 ・日本が蓄積してきた「知」を国際社会における教養の一環として積極的に発信しうる市民としての素養を身に付けている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf)</p> <p>(概要)</p> <p>(カリキュラム) 複数の外国語の運用能力を身につけるとともに、環太平洋地域を見据えた日本を含む諸地域の言語・文化・社会についての知識を習得し、さらに、日本が蓄積してきた「知」を国際社会における教養の一環として積極的に発信しうる市民を育成するためのカリキュラムを編成する。</p> <p>(外国語教育) 英語と他の外国語(スペイン語・中国語・韓国語、外国人学生は日本語)を併習させ、二つの外国語を「読む」「書く」「話す」「聞く」という運用能力を総合的に養成し、専門的なレベルに到達させるカリキュラムを独自に編成し、実施する。</p> <p>(教養教育、専門教育) 教養教育と専門教育については、明確な区分や位置づけを行わず、1～4年次にかけて幅広い教養学習を可能とすることで、学生自らが体系的な専門形成を図るカリキュラムを独</p>

<p>自に編成し、実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>
<p>（概要） （求める人物像） 2言語併習と8つの研究科目群の履修を通じた、国際的に通用する教養（知識、技能、判断力）の獲得により、外国の文化を知るとともに、自国のことを正しく相手に伝えたいと考える人物を求める。</p> <p>（出願要件） 高等学校卒業程度の資格と学力を要する。科目別では外国語、国語、地理歴史・公民、数学、理科の学力を求める。</p> <p>（入学者選抜方法） 外国語教育重視の観点から、外国語科目を重視した入試を行う。また、多彩な学生の受け入れを図るべく、一般入試をはじめとする様々な入試制度を設ける。</p>

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>
<p>（概要）経済学部は、外国語の能力、ならびに、豊かな歴史観、自然観、および、倫理観を中核とする教養に基礎付けられた経済学、経営学・情報、環境学の専門知識を習得した、国際的視野を有する優れた社会人、地域社会や国際社会に貢献できる実践的な人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>
<p>（概要） （学位授与要件、学位の種類） 修業年限を満たし、所定の単位を修得し、卒業時点で以下の能力を身に付けた者に「学士」の学位を授与する。</p> <p>（学位の裏付けとなる「能力」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の能力を身に付けている。 ・豊かな歴史観、自然観、および倫理観を中核とする教養に基礎付けられた経済学、経営学・情報、環境学の専門知識を身に付けている。 ・国際的視野を有する優れた社会人としての素養を身に付けている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>

<p>(概要)</p> <p>(カリキュラム) 外国語の能力、ならびに、豊かな歴史観、自然観、および、倫理観を中核とする教養に基礎付けられた経済学、経営学・情報、環境学の専門知識を習得した、国際的視野を有する優れた社会人、地域社会や国際社会に貢献できる実践的な人材を育成するためのカリキュラムを編成する。</p> <p>(外国語教育) 第一外国語を英語（外国人学生は日本語）と定め、外国語を「読む」「書く」「話す」「聞く」という運用能力を総合的に養成し、専門的なレベルに到達させるカリキュラムを全学的に編成し、実施する。また、第二外国語についても同様にカリキュラムを編成、実施する。</p> <p>(教養教育) 主として人文科学、社会科学、自然科学の各分野に関する科目を配置したカリキュラムを全学的に編成し、実施する。</p> <p>(専門教育) 豊かな歴史観、自然観、および倫理観を中核とする教養に基礎付けられた経済学・経営学・国際環境経済学に関する体系的な専門知識、技能を習得できるカリキュラムを独自に編成し、実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>(求める人物像) 外国語の能力、ならびに、豊かな歴史観、自然観、および、倫理観を中核とする教養に基礎付けられた経済学、経営学・情報、環境学の専門知識を習得した、国際的視野を有する優れた社会人、地域社会や国際社会に貢献できる実践的な人材となるための資質を有する人物を求める。</p> <p>(出願要件) 高等学校卒業程度の資格と学力を要する。科目別では外国語、国語、地理歴史・公民、数学、理科の学力を求める。</p> <p>(入学者選抜方法) 外国語教育重視の観点から、外国語科目を重視した入試を行う。また、多彩な学生の受け入れを図るべく、一般入試をはじめとする様々な入試制度を設ける。</p>
<p>学部等名 法学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>法学部は、外国語の能力、ならびに、歴史、文化、および、社会に関する深い教養に基礎付けられた法学、および、政治学の専門的知識を習得した、国際的視野に立つ教養人を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>

<p>(概要)</p> <p>(学位授与要件、学位の種類) 修業年限を満たし、所定の単位を修得し、卒業時点で以下の能力を身に付けた者に「学士（法学）」の学位を授与する。</p> <p>(学位の裏付けとなる「能力」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の能力を身に付けている。 ・歴史、文化、および社会に関する深い教養に基礎付けられた地域的、および国際的な法学、および政治学の専門的知識を身に付けている。 ・国際的視野に立つ教養人としての素養を身に付けている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>(カリキュラム) 外国語の能力、ならびに、歴史、文化、および、社会に関する深い教養に基礎付けられた地域的、および、国際的な政治学、および法学の知識を習得した、国際的視野に立つ教養人を育成するためのカリキュラムを編成する。</p> <p>(外国語教育) 第一外国語を英語（外国人学生は日本語）と定め、外国語を「読む」「書く」「話す」「聞く」という運用能力を総合的に養成し、専門的なレベルに到達させるカリキュラムを全学的に編成し、実施する。また、第二外国語についても同様にカリキュラムを編成、実施する。</p> <p>(教養教育) 主として人文科学、社会科学、自然科学の各分野に関する科目を配置したカリキュラムを全学的に編成し、実施する。</p> <p>(専門教育) 歴史、文化、および社会に関する深い教養に基礎付けられた地域的、および国際的な法学、および政治学に関する体系的な専門的知識、技能を習得できるカリキュラムを独自に編成し、実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/jikotenken/pdf/houshin.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>(求める人物像) 外国語の能力、ならびに、歴史、文化、および、社会に関する深い教養に基礎付けられた法学、および、政治学の専門的知識を習得した、国際的視野に立つ教養人となるための資質を有する人物を求める。</p> <p>(出願要件) 高等学校卒業程度の資格と学力を要する。科目別では外国語、国語、地理歴史・公民、数学、理科の高い学力を求める。</p> <p>(入学者選抜方法) 外国語教育重視の観点から、外国語科目を重視した入試を行う。また、多彩な学生の受け入れを図るべく、一般入試をはじめとする様々な入試制度を設ける。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：http://www.dokkyo.ac.jp/daigaku/a01_05_j.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
外国語	—	51人	20人	9人	0人	1人	81人
国際教養	—	26人	6人	3人	0人	0人	35人
経済	—	45人	10人	3人	0人	2人	60人
法	—	29人	3人	3人	3人	1人	39人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		444人					444人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/daigaku/portal_j.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
外国語	565人	646人	114.3%	2,260人	2,859人	126.5%	0人	3人
国際教養	150人	173人	115.3%	610人	761人	124.8%	5人	1人
経済	680人	743人	109.3%	2,720人	3,433人	126.2%	0人	1人
法	355人	370人	104.2%	1,430人	1,793人	125.4%	5人	0人
合計	1,750人	1,932人	110.4%	7,020人	8,846人	126.0%	10人	5人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
外国語	608人 (100%)	9人 (1.5%)	501人 (82.4%)	98人 (16.1%)
国際教養	162人 (100%)	1人 (0.6%)	139人 (85.8%)	22人 (13.6%)
経済	745人 (100%)	3人 (0.4%)	653人 (87.7%)	89人 (11.9%)
法	381人 (100%)	6人 (1.6%)	322人 (84.5%)	53人 (13.9%)
合計	1,896人 (100%)	19人 (1.0%)	1,615人 (85.2%)	262人 (13.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・上記項目を適切に記載するためのシラバス作成ガイドラインを教員に配布し、ルールに沿ったシラバス作成を促すとともに、適切な内容が記載されているか、第三者のチェックを経てシラバスの適正性を担保している。 ・作成したシラバスは大学ポータルサイトの一般の方が参照可能なページに掲載している。 ・公開時期は毎年度末の3月。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席管理システムや受講者名簿、レスポンスペーパーなどで出席状況を把握し、成績不振の学生を定期的に抽出することで学習状況を把握するとともに、面談など適切な対応を行っている。 ・学生自身が成績評価を把握する指標としてGPAを導入し、成績評価とともにGPAを定期的に学生に通知している。また、実際の成績評価方法として相対評価の導入を段階的に進めている。 ・一部の語学系科目において、試験問題の共通化と複数教員による採点を行うことで、成績評価の客観性を担保している。 ・卒業の認定に関する方針を大学ホームページで公表している。方針に沿った卒業判定が行われているかを複数の会議体・部署で確認することで、方針と判定結果との齟齬がない適切な卒業認定が行われるよう徹底している。 				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
外国語学部	ドイツ語学科	128 単位	有・無	単位
	英語学科	128 単位	有・無	単位
	フランス語学科	128 単位	有・無	単位
	交流文化学科	128 単位	有・無	単位
国際教養学部	言語文化学科	128 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	128 単位	有・無	単位
	経営学科	128 単位	有・無	単位
	国際環境経済学科	128 単位	有・無	単位
法学部	法律学科	128 単位	有・無	単位
	国際関係法学科	128 単位	有・無	単位
	総合政策学科	128 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/daigaku/g05_01_j.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学部	全学科	760,000 円	270,000 円	280,000 円	施設設備費
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、開架資料は主題ごとに各フロアにまとめることで資料活用の便を図り、またグループで相談しながら利用できる場所から集中して利用可能な個室まで多様な利用環境を提供している。契約データベースを含めた資料活用やレポート作成のサポートをするレファレンスカウンターを複数配置しているほか、PC利用のサポート窓口を館内に置いている。 ・教育研究支援センターでは、外国語教育、コンピュータ関連で幅広いサポートを行っている。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の各言語圏の文化に浸り、異文化交流ができるICZ (International Communication Zone) を備え、ネイティブ・スピーカーとのチャットや留学生との交流、海外情報の収集も可能。自律的に主体的に学ぶための自律学習スペース「CLEAS(クレアス)」では、PCやモニターを備えたグループ学習利用やプリントステーションの活用ができる。 ・英語学習サポートルームにて、学生一人ひとりのニーズに合った英語学習を支援している。 ・国際交流センターにおいて、長期の交換留学・認定留学をはじめ、多彩なコースから選べる短期留学等を支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアセンターにおいて、就職カウンセリングの専門的知識のあるカウンセラーを配置し、学生個人に応じたきめ細かなカウンセリングを実施している。 ・自己を見つめ将来の夢を描く手助けとなる授業を1年次より開講。また、「就職力」が身につけられるよう筆記試験対策・書類の書き方・面接対策など、実践に即した講座・ゼミ・ガイダンスを多数用意している。 ・学生のキャリアアップや資格取得を支援するため、公務員試験対策講座や公認会計士養成講座、豊富な資格試験対策講座を学内で開講している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内に保健センターとカウンセリングセンターを備え、学生の心と体の健康維持をサポートしている。 ・総面積 29,000 m²にもおよぶ広大な人工芝グラウンド、体育館 (アリーナ) やトレーニングルームなど、スポーツに最適な環境も整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： http://www.dokkyo.ac.jp/daigaku/g_j.html
